

いちき串木野市立串木野中学校

「チーム串中」



黒潮

2月号

令和4年2月1日(火)

今年度の振り返りと来年度の準備

学校長 森本 信一

早いもので、今年度も残すところあと2か月となりました。3年生は進路決定の重要な時期を、そして、1・2年生は進級に向けた準備の時期を迎えました。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われるように、三学期は1年の中で最も短い学期であり慌ただしく過ぎていきますが、学校生活の1年間を締めくくる大切な時期であります。**気持ちを引き締め一日一日を大切に**過ごしてもらいたいと思っています。

さて、今月号は少し堅い話になります。最後までお付き合い下さい。

学校には、様々な教育活動を行う計画書である「教育課程」というものがあります。そして、その教育課程を作成する際の基になるのが、文部科学省が作成している「学習指導要領」です。この学習指導要領は、幼・小・中・高・特別支援学校で別々に作成されており、校種等別に、それぞれの教科等で扱うべき内容や実施する時数の目安等について定められているもので、全国の学校がこれに基づいて教育計画である「教育課程」を作成しています。

この学習指導要領は、だいたい10年ごとに改訂されます。**社会は大きく変化**しています。それに伴い物事の考え方や生徒の様子も変化していきます。そのような動きに併せて学校教育も変えていかなければならないからです。

そして、中学校は今年度から切り替わりました。学習指導要領の改訂に併せて教科書も全面的に新しくなりました。ただ、教育内容がこれまでと全く変わってしまうわけではありませんのでご心配いただくことはありません。

学習指導要領の改訂に伴って学校では学習評価の観点や評価規準を変え、通知表の内容も変えました。また、学校においては、学校教育法施行規則24条1項に基づき、生徒の今後の指導や外部に対する証明などに使うための原簿となる「指導要録」を作成し保存していますが、学習指導要領改訂に伴い「指導要録」の様式も改正されました。主な改正点は、本校の通知表と同じように各教科の学習の記録が「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」「**主体的に学習に取り組む態度**」の3つの観点で整理され、各教科の目標に照らして「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価するようになりました。本校では、生徒の今年度の学びが次の学年に確実につながるようにするために、「指導要録」の活用を工夫し、その機能が最大限に発揮できるようにしていきたいと考えています。

3年生にとって、また、保護者の皆さんにとっても進路決定という3年間で一番つらく苦しい時期を迎えています。しかし、出口のないトンネルはありません。**トンネルを抜けると春が待っています**。もう少しの辛抱です。一緒に頑張っていきましょう。

